

Q7 開発前の、昭和時代の品濃町の住民生活はどのようなものだったのでしょうか？

A

- ・税理士の笠原美和さんの講演録「東戸塚・思い出あれこれ」から関心の深い部分を抜粋してみましよう。
- ・品濃村（と川上村）の入口は国道一号線の「品濃口」で、出口はなく、東京や横浜に出るには、品濃口へ出て、バスに乗るしかありませんでした。上品濃に住む笠原さんの足で品濃口まで小1時間かかりました。ところが、昭和35年に戸塚駅と品濃（今の東戸塚駅の東口付近）を一日6回折り返す神奈川中央交通バスが通るようになりました。
- ・運搬具として、昭和30年代頃までで最もポピュラーだったのがリヤカーで、大体どこの農家にもありました。次に多かったのが牛車。大八車を牛に引かせました。馬車は少なかったです。
- ・学校は唯一「川上小学校」があっただけ（校舎は柏尾町のポーラ化粧品前）。通学範囲は大変広く、北は品濃・平戸、南は舞岡までありました。そのため、低学年の一年生のために分校が設けられていました。舞岡に南分校、平戸に北分校。本校までは、笠原さんの足で1時間以上もかかりました。
- ・農家の副業として、冬はかなりの農家で炭焼きをやっていました。
- ・当時の農家の肥料は人糞が主流で、「下肥（しもごえ）」といいました。他人様のトイレから汲み取らせていただき、お礼として野菜などを差し上げました。
- ・当時、商店は「坂下」に長谷川商店が1軒あっただけ。向かいの平戸地区の石渡商店を加えても2軒あっただけです。長谷川商店はお菓子と煙草、石渡商店は酒、味噌、醤油、お菓子、煙草を商っていました。魚や肉、豆腐などは行商がこまめに来ました。薬局は柏尾に1軒あった程度でしたので、富山の薬売りに頼っていました。
- ・履物は、通学するときはズック靴か下駄。家にいるときは殆ど藁草履でした。
- ・品濃町で特徴的なのは、99%の住民が農家で、その住まいの99%は茅葺屋根でした。
- ・上品濃に水道が入ったのは昭和30年代の初頭です。それまでは全て井戸でした。風呂に水を汲み入れる作業は大変な重労働でした。また、上品濃に電話が入ったのは多分昭和30年代後半でした。
- ・地区での共同作業として、道普請と橋普請がありました。
- ・水泳は、学校にプールはありませんでしたから、比較的綺麗だった川上町の大池で泳ぐため夏には山道を伝ってよく行きました。